2012年度第３四半期業績のご報告



日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2012年11月12日

目　次

Ⅰ．アシスタンスサービスの概要

Ⅱ．2012年度第3四半期累計期間決算報告

Ⅲ．各種施策の取組み状況

Emergency Assistance Japan

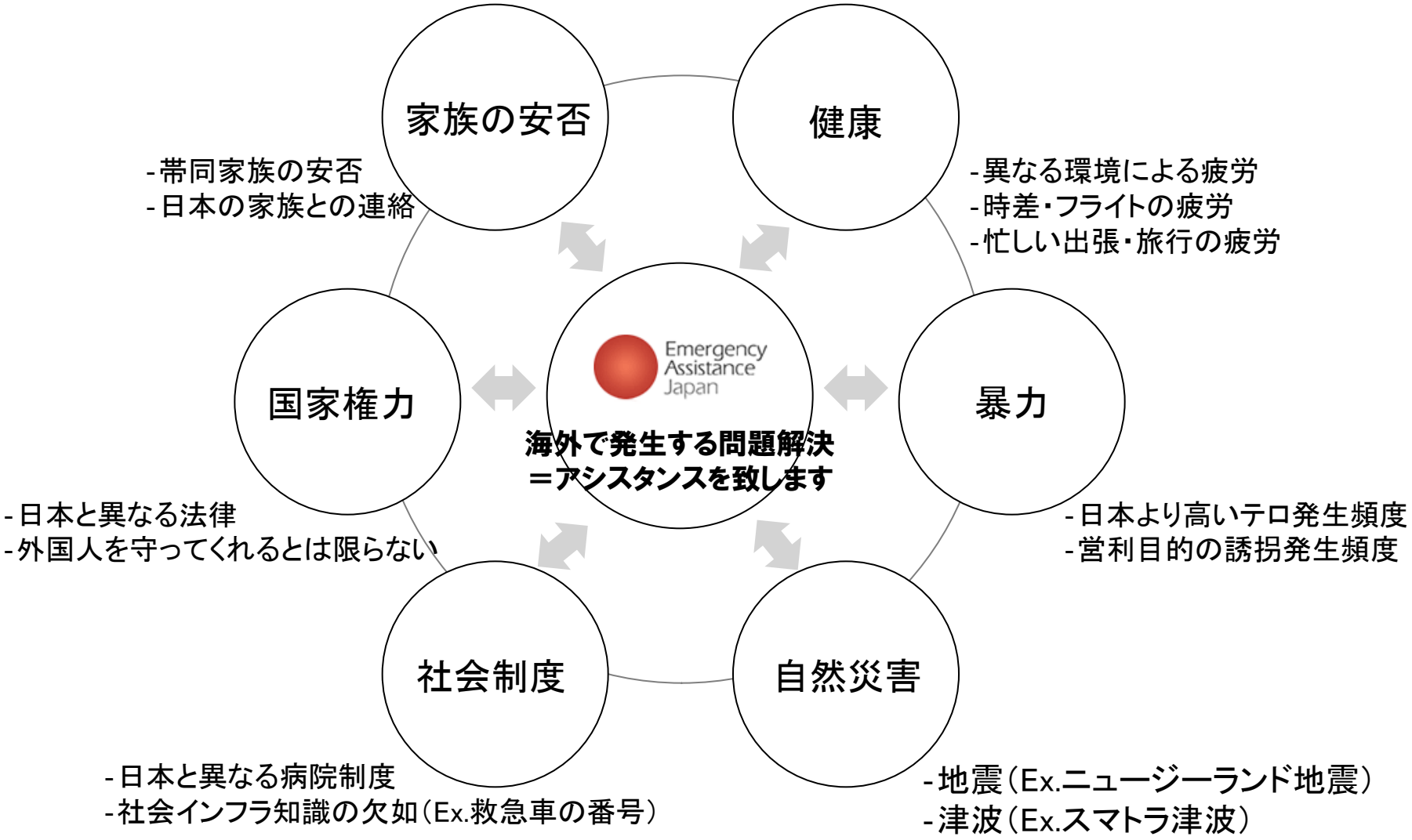
Ⅰ．アシスタンスサービスの概要

Ⅱ．2012年度第3四半期累計期間決算報告

Ⅲ．各種施策の取組み状況

アシスタンスサービスの概要

何も問題のおきていない日常自体が海外では「いつもと違います」
～EAJは間に入って手配して困った方のお手伝いを致します～



医療アシスタンスサービスとは：Ex.中国出張中に病気になった場合

医療アシスタンスとは、海外旅行・出張時における医療事象（病人、怪我人）発生の際、スムーズな治療が行われるようにコーディネートを行う業務

●海外で病院に行けますか？

海外に現地で暮らしているお友達がいれば病院の場所を丁寧に教えてくれたり、予約をしてくれたり、実際に付き添ってくれるかもしれません。しかし海外では運良く親しい知人がいるとは限りません。

●日本語が通じない状況で、適切な治療を受けられますか？

例えば出張先が上海であれば、日本人向けクリニック（医療機関により良し悪しの差はある）が存在します。しかし、日本企業の進出している中国内陸部に入ると事情は異なります。中国の人々が行く病院と同じ病院に行き、朝5時から一日がかりで並んで、必ずしもレベルの高くない初診担当の医師に見てもらわなければならなくなります。しかも、中国語がわからなければ通常お手上げでしょう。

⇒世界中でお客様が安心して医療サービスを受けられるようコーディネートを行う、それがEAJの仕事です

EAJは、海外で受診する必要のある日本のお客様に、言語や制度、カルチャーギャップのある海外環境でも、安心して医療サービスを受けることができるようなコーディネートを、世界すべての地域で行っています。
重大な事態では日本人医療者を海外まで派遣し日本までの帰国の搬送も行っています。

コンシェルジュサービスとは：Ex.海外旅行でレストランを予約したい場合

コンシェルジュ（ライフアシスタンス）とは、旅行などの楽しい機会に、お客様のご要望の実現に向けたコーディネートを行う業務

●海外旅行中、もっと楽しい時間を過ごしたいと思いませんか？

例えば結婚20年記念で、ご夫婦でパリに旅行に行った時、ミシュランの三ツ星レストランで食事をしてみたいと思う夫婦は多いでしょう。
また、友人と行く旅行でも、現地のおいしいレストランで食事をしたいと思う方は多いでしょう。
日本では何のこともないレストランの予約ですが、海外では以下の状況を恐れて躊躇してしまうのです。

- 現地語や英語が堪能でないため、予約が難しい
- 満席で断られるかもしれない
- 自分達ではどこのレストランが良いのか選択できない
- レストランへの行き方がわからない

奥様を喜ばせてあげたいと思っても、上記が原因で喧嘩となった経験を持つ方も多いのではないでしょうか？

⇒<u>海外での最高のコンシェルジュサービスを、世界各地で、日本語で行うのがEAJです</u>

EAJは、ゲストの要請なら三ツ星レストランでも予約を捻じ込むパリのリッツホテルのコンシエルジュのようなサービスを、世界各地域で行っています。

国際医療交流支援サービスとは

国際医療交流支援とは、日本での治療を希望する海外の方達に対し、スムーズな治療に向けた支援を行う業務

●国が推進する「日本の医療の産業化と国際化」

日本の医療は消化器系の内視鏡などの先進医療分野において優位性を持っています。「日本の医療の産業化と国際化」とは、そのような先進医療の受診を希望する海外の方達を積極的に受け入れるとともに、日本の高度な医療技術を世界に発信し、大きな産業として発展させよう、というものです。

●世界では日本が実は医療先進国だということが知られていない

しかし、アメリカや欧州と比較すると、日本の医療は認知度が低く、海外で高い評価を受けているとは言い難い状況にあります。また、日本の病院は歴史的に保険外診療に長けておらず、言葉の壁もあり、外国人患者の受入れに消極的でした。

⇒日本での治療を希望する外国人患者と病院の仲介、日本の医療機関や医療技術の海外進出のお手伝いをしているのがEAJです

EAJは、今までのアシスタンス事業で培ってきた経験やノウハウを生かし、個別の外国人患者に最適な病院の選択や、医療ビザの手配、来日支援などを行っています。また中東諸国などへの日本の先端医療の輸出のお手伝いもしています。

Emergency Assistance Japan

Ⅰ．アシスタンスサービスの概要

Ⅱ．2012年度第3四半期累計期間決算報告

Ⅲ．各種施策の取組み状況

第3四半期のトピックス

- 売上高　1,436百万円（2Q累計：989百万円　＋　3Q: 447百万円）
  営業利益　88百万円（2Q累計：　60百万円　＋　3Q:　28百万円）
  経常利益　67百万円（2Q累計:　42百万円　＋　3Q:　25百万円）

- 海外出国者数の増加※にリンクして、当社の案件数も順調に推移。９月の海外出国者数は、今年度初めて前年度割れとなったが、当社の案件数には影響なし

- 先行投資的に人材採用を行ったものの、外注費を中心に費用を抑制

- タイ子会社アシスタンスセンターの24時間化を引続き推進

※ 2～8月の海外出国者数累計は過去最高を記録（JINTO調べ）

第3四半期累計連結業績と通期連結業績予想の比較（単位：百万円）

	第1Q累計	第2Q累計	第3Q累計	通期予想
売上高	553	989	1,436	1,964
営業利益	53 （9.7%）	60 （6.1%）	88 （6.1%）	159 （8.1%）
経常利益	53 （9.6%）	42 （4.3%）	67 （4.7%）	140 （7.2%）
当期純利益	31 （5.7%）	25 （2.6%）	40 （2.8%）	87 （4.4%）

セグメント別業績ハイライト（単位：百万円）

医療アシスタンス事業は、海外出国者数が増加する夏休みが挟まったため、第2Qと比して、売上高・利益ともに順調に推移。ライフアシスタンス事業は、年間契約料ベースのため、ほぼ横ばい

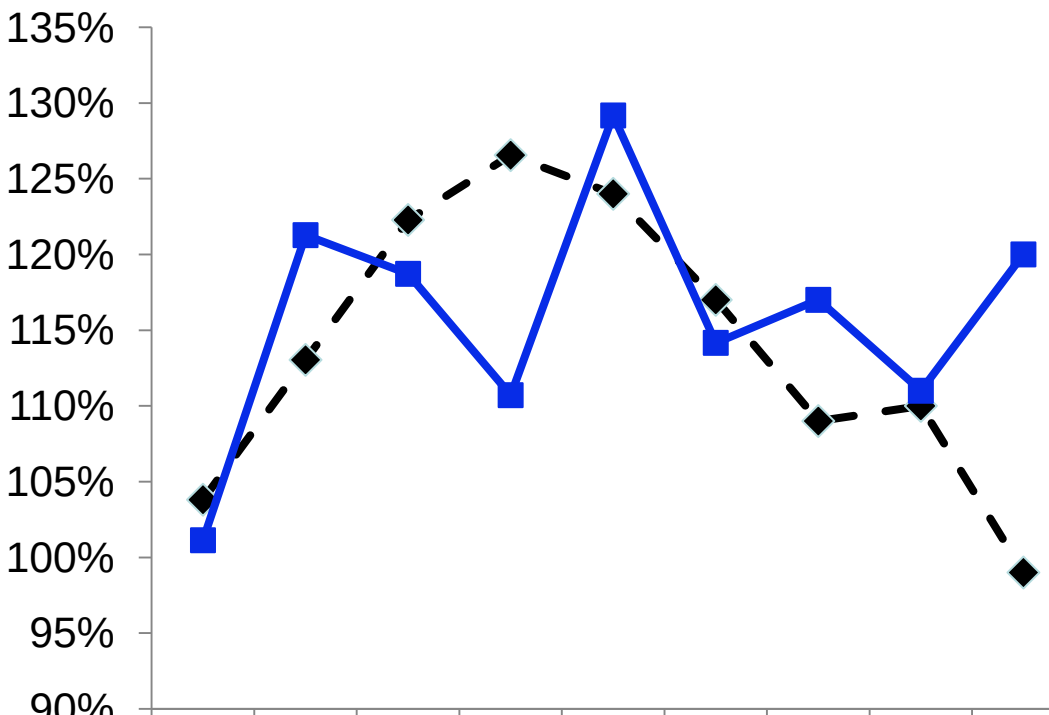
	第1Q		第2Q		第3Q		第3Q累計	
	売上高	利益	売上高	利益	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	469 ※1	95	349	69	359	83	1,178	248
ライフアシスタンス事業	84	27	86	23	87	22	258	73
調整額※2	-	△69	-	△87	-	△76	-	△232
P/L計上額	553	53	435	6	447	28	1,436	88

※1　医療アシスタンス事業には、1Qのみに計上される官公庁関連の売上高が存在する
※2　調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている

医療アシスタンス事業の概要

前年対比で増加傾向にある海外出国者数にリンクし、当社案件数も前年対比で増加。
9月の海外出国者数は前年を割れたが、当社案件数に影響は見られなかった

海外出国者数と案件数の推移（前年同月比）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
海外出国者数	104%	113%	122%	127%	124%	117%	109%	110%	99%
案件数	101%	121%	119%	111%	129%	114%	117%	111%	120%

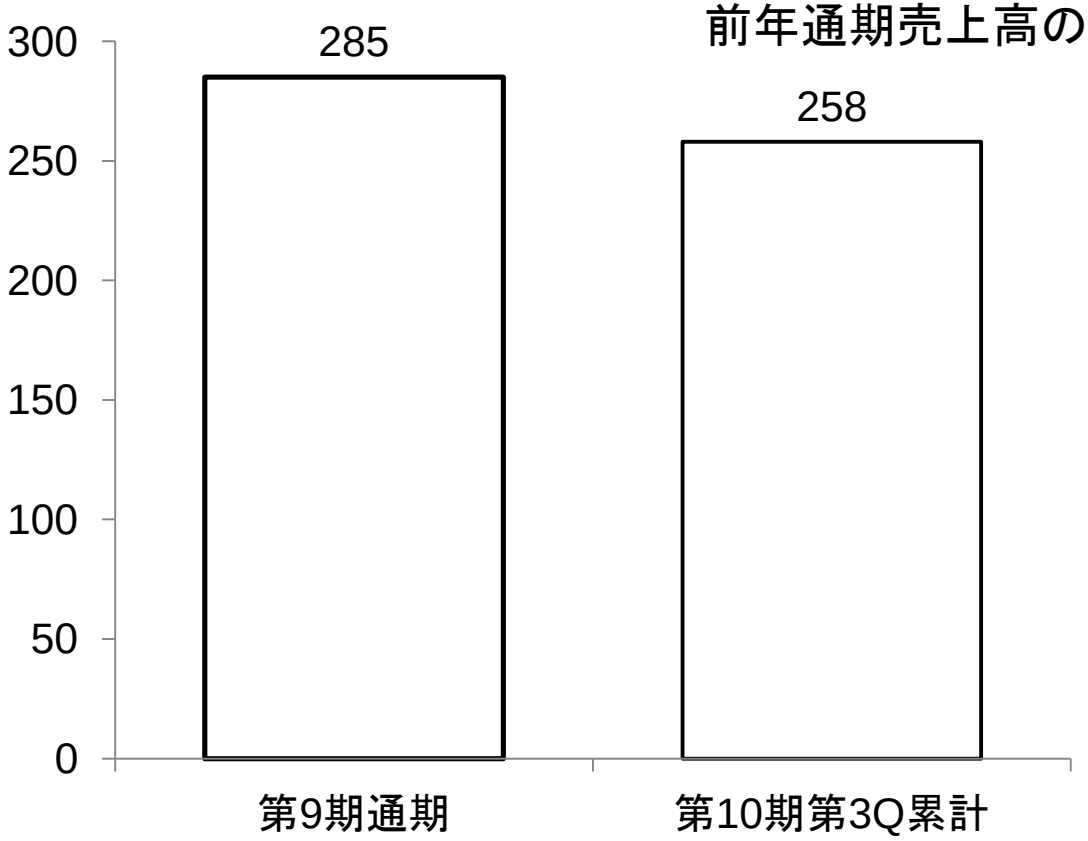
資料：海外出国者数は『平成24年　出国日本人数推計値』JNTOを参考とした。8月と9月については推計値。
また、案件数は、今年度新たに契約したビジネスを除いた、既存ビジネスの対比

ライフアシスタンス事業の概要

第3Q累計期間終了時点で、ライフアシスタンス事業の売上高は前年通期売上高の90パーセントに到達

売上高の比較（第9期通期vs.第10期第3Q累計期間、単位：百万円）

前年度期中に契約額の見直しを実施。
よって、第3Q累計期間終了時点で、
前年通期売上高の90パーセントに到達



Emergency Assistance Japan

Ⅰ．アシスタンスサービスの概要

Ⅱ．2012年度第3四半期累計期間決算報告

Ⅲ．各種施策の取組み状況

各種施策の取組み状況

各種取組みの第3四半期からの進捗状況は以下のとおり

第3Qの状況	第4Qの進捗状況
タイ子会社アシスタンスセンターの24時間化を推進	-24時間化を開始（10/1に開示） -新規ビジネスの獲得に向けたアプローチを強化
遅延していたビジネスの一部を獲得	その他いくつかの契約が決定
日中関係の悪化により、出国者数が減少	現状で案件数の減少はなし（11/2に開示）
外注費を中心として費用の抑制を開始	費用の抑制を継続

各種施策に関するNEWS RELEASE

タイアシスタンスセンターの24時間化 (10/1)

NEWS RELEASE

2012年10月1日

各位

会社名　日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表者名　代表取締役社長 吉田 一正
（コード番号:6063 大阪証券取引所JASDAQ）

日本エマージェンシーアシスタンス、東南アジアにおけるサービス提供体制を強化

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（略称:EAJ、URL:http://emergency.co.jp/ 本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正）は、東南アジアにおけるサービス提供体制の強化を目的として、10 月 1 日より、タイアシスタンスセンター（タイ子会社:EMERGENCY ASSISTANCE (THAILAND) COMPANY LIMITED）の運営を拡張致します。

東南アジア地域には、タイとシンガポールにアシスタンスセンター（子会社）を設置し、日中時間帯のみ両アシスタンスセンターがサービスを提供する体制としておりました（時間外は他センターがサービス提供）が、今後はタイアシスタンスセンターの運営を 24 時間 365 日体制と致します。

タイアシスタンスセンター体制強化の背景と目的は以下の2つとなります。

●需要が拡大する東南アジア地域におけるサービス品質の強化
急速な経済成長を遂げている東南アジアに進出する日本企業の数は増加傾向にあります。また、国際情勢の変化から東南アジアへのシフト加速が予測される中、今後も当該地域におけるアシスタンス需要は拡大するものと想定されます。タイアシスタンスセンターの体制強化は、同地域のお客様に対して 24 時間 365 日体制で地域密着型の「きめ細かいアシスタンス」を提供可能とし、お客様のニーズに対応できるものと考えております。

●バックアップ体制の強化
緊急事態への対応を世界中で行うアシスタンス事業の特性上、アシスタンスセンター間のバックアップ体制構築は不可欠となっております。新たな 24 時間 365 日運営のアシスタンスセンターの誕生により、全社的な事業継続（バックアップ）体制が強化されます。

中国事業の近況 (11/2)

NEWS RELEASE

平成24年11月2日

各 位

会 社 名　日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表者名　代表取締役社長　吉 田 一 正
（コード番号：６０６３）
問合せ先　取締役管理本部長　南　健
（ TEL. ０３-３８１１-８１２１）

当社中国事業の近況について

中国における大規模デモ後の情勢が、当社グループの事業活動に及ぼす影響について、以下の通りお知らせ致します。

●当社中国子会社（北京威馬捷国際旅行援助有限責任公司）における業務への影響
当社中国子会社のオフィス所在地および社員の生活圏においては、デモ行為による物的被害・人的被害ともに発生しておらず、業務への影響はございません。万一デモ行為等によりオフィス運営に影響が出てしまった場合につきましても、アシスタンス業務に関しましては、タイや日本のアシスタンスセンターにて対応ができるようバックアップ体制が整えられておりますので、支障はありません。

●当社医療アシスタンス事業への影響
現時点では事業活動への影響はありません。大規模デモの発生地域では日系クリニックが急遽休業している場合もある為、当社アシスタンスセンターでは、邦人のお客様から受診の希望があった際には、受診の可否の事前確認及び移動についての注意喚起を徹底しております。

●業績への影響
当社グループの主たる事業である、海外旅行保険付帯サービスについて、今年度業績予想への重要な影響はございません。ただし、今後重大な影響が見込まれる場合は、速やかに開示致します。

本説明会及び説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社